

- きっかけ：近年の米価の下落等により所得が減少 → 園芸作物等を導入した経営の複合化を目指す
（たまねぎの選定理由）①県内に産地がない②機械化作業が可能③水稻作作業と時期が競合しない
※古くから砺波地区で栽培が盛んなチューリップと作型が似ていること等
- 事業内容：①水田転換畑での機械化一貫体系に対応した技術確立
②富山の気象条件に対応した技術の確立③安定生産のための各経営体の技術レベルの底上げ
※加工・業務用に出荷することにより、販路拡大や調整作業等の省力化を目指す
- 販路：加工・業務用・・・剥き・カット・ダイス加工業者に供給／青果用・・・市場・業者等を通じて、小売店等に供給

JAとなみ野

たまねぎ産地の概要

端境期（6月中下旬～8月末）を狙って出荷

○ブロックローテーション
例）水稻→大麦→たまねぎ→大豆orにんじん

○JAの関わり
乾燥調製施設、選別調整施設を整備し、乾燥・調整・選別・出荷を行う

○作付け面積
H21年 8ha（24経営体）
R4年 136ha（90経営体）

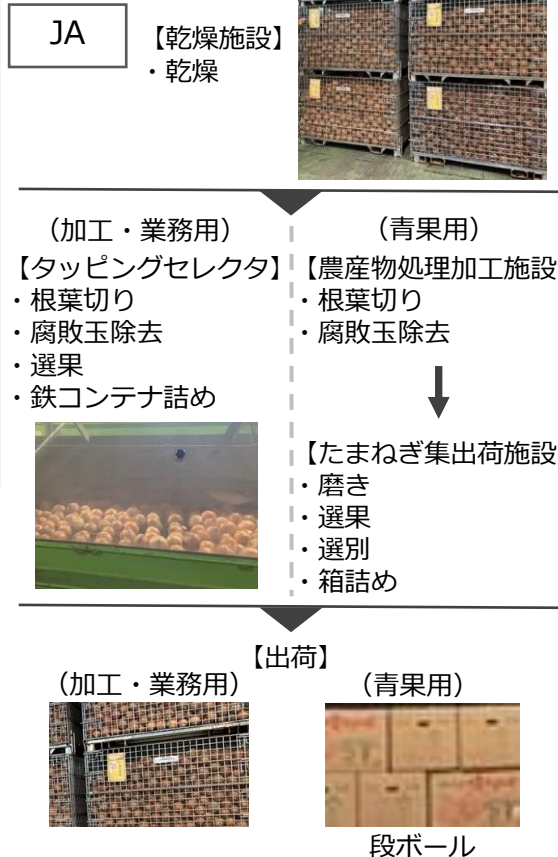
○販売金額
H21年 12,899千円
R4年 694,544千円

生産者

播種：8月下旬～9月上旬
定植：10月中旬～11月上旬
収穫：6月中旬～7月上旬



6,349 t
(R4年産)



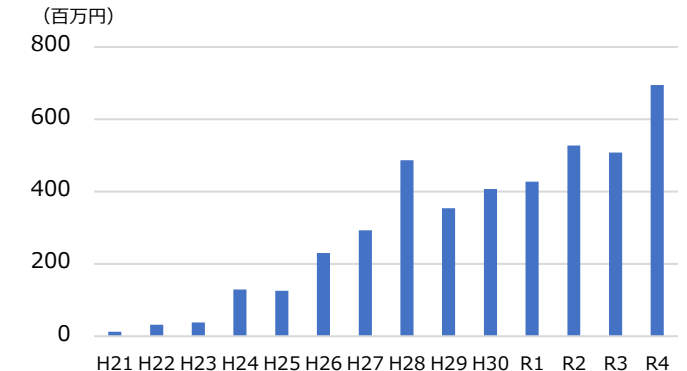
実需者

（加工・業務用）
北海道、埼玉、栃木、茨城、千葉、
神奈川、岐阜、名古屋、静岡、香川等

（青果用）
富山、東京、岐阜、石川、名古屋、
大阪等



販売金額の推移



産地生産基盤パワーアップ事業(H28,29,30)及び持続的生産強化対策事業(R2,3,4)により農業機械、集出荷施設等を整備